

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

平成 28 年 1 月(週報第 1 週～第 4 週(1/4～1/31))集計の感染症発生動向調査情報に関する「栃木県結核・感染症サーベイランス委員会」の解析評価結果は次のとおりです。

## 1 感染症解析情報 {1 月は 4 週間、前月 12 月は 5 週間、前年 1 月は 4 週間での比較となります。}

### (1)概況

ア. 1 月の報告数は次のとおりです。全数(1～5 類)把握疾病は **34 件**(12 月は **51 件**)でした。  
 定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **4,661 件**(定点あたり **21.36 件/週**)であり、12 月の **2,968 件**(定点あたり **13.68 件/週**)と比較し、週あたり **1.56 倍**と大幅に高い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同月との比較 (週あたり比)
インフルエンザ	<b>2,444 件</b> (週あたり平均 611.00 件)	 <b>(30.25 倍)</b> 前月は 101 件 (週あたり平均 20.20 件)	 <b>(0.32 倍)</b> 前年同月は 7,625 件 (週あたり平均 1,906.25 件)
感染性胃腸炎	<b>1,183 件</b> (週あたり平均 295.75 件)	 <b>(1.50 倍)</b> 前月は 988 件 (週あたり平均 197.60 件)	 <b>(1.25 倍)</b> 前年同月は 946 件 (週あたり平均 236.50 件)
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<b>394 件</b> (週あたり平均 98.50 件)	 <b>(0.78 倍)</b> 前月は 630 件 (週あたり平均 126.00 件)	 <b>(2.04 倍)</b> 前年同月は 193 件 (週あたり平均 48.25 件)

- ① **インフルエンザ**は、前月に比べ報告数が 30.25 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期と比べると、報告数で 0.32 倍と大幅に低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ② **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 1.50 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 1.25 倍とかなり高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ③ **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、前月に比べ報告数が 0.78 倍とやや低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 2.04 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、かなり高い水準で推移しています。

### (2) 全数 (1～5 類) 把握疾病情報 (全国)

ア. 1 類、2 類及び 3 類疾病

結核 1,439 件(12 月 1,969 件)、細菌性赤痢 9 件(12 月 7 件)、腸管出血性大腸菌感染症 58 件(12 月 104 件)、腸チフス 5 件(12 月 4 件)、パラチフス 2 件(12 月 3 件)の報告がありました。  
 他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4 類・5 類 (上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	侵襲性肺炎球菌感染症	250	316
2	梅毒	247	287
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	112	133
4	後天性免疫不全症候群	101	127
5	アメーバ赤痢	95	96
6	レジオネラ症	86	123

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 34 件)

結核 21 件、E 型肝炎 1 件、つつが虫病 1 件、レジオネラ症 1 件、急性脳炎 3 件、侵襲性肺炎球菌感染症 5 件、水痘(入院例に限る)1 件、梅毒 1 件

## 2 疾病の予防解説

インフルエンザの解説です。

インフルエンザは、感染症法に基づく5類感染症定点把握疾患です。

本県では、平成28年第1週（1月4日（月）から1月10日（日））に定点当たり報告数が1.14となり、流行開始の目安である「1.00」に達し、第4週（1月25日（月）から1月31日（日））には、20.29と県内全域で注意報レベルである「10.00」を超え、報告数が多くなっています。

例年、冬季を中心に流行し、乳幼児や高齢者等では重篤化することがあるため、今後の発生動向に注意するとともに、予防対策の徹底を心がけましょう。

疾病名	インフルエンザ
疾病の特徴や症状	<p>インフルエンザウイルスの感染によって引き起こされる呼吸器系感染症です。「一般のかぜ症候群」とは分けて考えるべき「重くなりやすい疾患」です。</p> <p>潜伏期間は、概ね1～7日（多くは3～4日）です。38℃以上の発熱と、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せてのどの痛み、鼻水、咳など一般的な風邪と同じような症状も見られます。</p> <p>感染経路は、咳などで飛び散ったウイルスを吸い込んで感染する（飛沫感染）ほか、ウイルスが付着したドアノブなどに触れて感染する（接触感染）場合などがあります。</p> <p>例年1月頃から流行しはじめ、1～3月頃にかけて患者数が増加する傾向が見られます。</p>
疾病の予防対策など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石けんを使用し、流水で手をよく洗いましょう。アルコールによる手指の消毒も効果的です。</li> <li>・空気が乾燥すると、インフルエンザに感染しやすくなります。室内では加湿器を使用するなど、適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。</li> <li>・体の免疫力を高めるために、バランスのよい食事と十分な休養、睡眠をとるなど、日頃から体調管理を心がけましょう。</li> <li>・インフルエンザの流行時期は、人ごみをできるだけ避けましょう。やむを得ず外出する場合は、マスクを着用しましょう。</li> <li>・咳やくしゃみなどの症状のある方はマスクを着用しましょう。</li> <li>・インフルエンザのような症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。解熱後もウイルスを排出し、他の人に感染させる可能性があるため、自宅療養に努めましょう。</li> <li>・インフルエンザワクチンは、重症化防止に有効とされています。接種を希望される方は、医療機関（主治医）に相談しましょう。</li> </ul>

(参考) 国立感染症研究所 インフルエンザとは より  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>

※予防解説は一般的なことについて記載していますので、不安な点については主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、1月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第1週 (1/4～1/10)	第2週 (1/11～1/17)	第3週 (1/18～1/24)	第4週 (1/25～1/31)
インフルエンザ			【注意報】 宇都宮市	【注意報】 県全域 宇都宮市 県西 県東 県南 県北 安足
伝染性紅斑	【警報】 宇都宮市 県西	【警報】 宇都宮市	【警報】 宇都宮市	【警報】 宇都宮市
流行性 角結膜炎	【警報】 県西	【警報】 県西	【警報】 県西	

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位1%以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。